



サーバの管理

この章の内容は、次のとおりです。

- [ロケータ LED の切り替え, 1 ページ](#)
- [サーバのブート順の管理, 2 ページ](#)
- [サーバのリセット, 4 ページ](#)
- [サーバのシャットダウン, 5 ページ](#)
- [サーバの電源管理, 5 ページ](#)
- [電力ポリシーの設定, 7 ページ](#)
- [Flexible Flash コントローラの管理, 12 ページ](#)
- [BIOS の設定, 16 ページ](#)

ロケータ LED の切り替え

はじめる前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # set locator-led {on off}	シャーシ ロケータ LED をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /chassis # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、シャーシロケータ LED をディセーブルにして、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # set locator-led off
Server /chassis *# commit

Server /chassis #
```

サーバのブート順の管理

サーバのブート順

CIMC を使用して、使用可能なブート デバイス タイプからサーバがブートを試行する順序を設定できます。

ブート順の設定を変更すると、CIMC は、サーバが次にリブートされるときに、設定されたブート順を BIOS に送信します。新しいブート順を実装するには、設定の変更後にサーバをリブートします。新しいブート順は以降のリブートで反映されます。設定されたブート順は、設定が再度変更されるまで再送信されません。



-
- (注) 次のいずれかの条件が発生すると、実際のブート順は設定されたブート順と異なります。
- 設定されたブート順を使用してブートしようとしたときに BIOS で問題が発生した。
 - ユーザが BIOS で直接、ブート順を変更した。
-

サーバのブート順の設定



-
- (注) ホストが BIOS 電源投入時自己診断テスト (POST) を実行している間は、ブート順を変更しないでください。
-

はじめる前に

このタスクを実行するには、**user** または **admin** 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	bios コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # set boot-order device1[,device2[,device3 [,device4[,device5]]]]	ブートデバイスオプションと順序を指定します。次の 1 つ以上を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • cdrom : ブート可能な CD-ROM • fdd : フロッピーディスク ドライブ • hdd : ハードディスク ドライブ • pxe : PXE ブート • efi : Extensible Firmware Interface
ステップ 3	Server /bios # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

新規のブート順は、次の BIOS のブートで使用されます。

次に、ブート順を設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # set boot-order hdd,cdrom,fdd,pxe,efi
Server /bios *# commit
Server /bios # show detail
BIOS:
  Boot Order: HDD,CDROM,FDD,PXE,EFI

Server /bios #
```

次の作業

サーバを再起動して、新しいブート順でブートします。

サーバの実際のブート順の表示

サーバの実際のブート順とは、サーバが最後にブートされたときに BIOS によって実際に使用されたブート順です。実際のブート順は、CIMC で設定されたブート順とは異なる場合があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	bios コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Server /bios # show actual-boot-order [detail]	サーバが最後に起動したときに実際に BIOS で使用されたブート順序を表示します。

次の例では、最後のブートの実際のブート順序を表示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # show actual-boot-order

Boot Order  Type                               Boot Device
-----
1           CD/DVD                                CD-ROM
2           CD/DVD                                Cisco Virtual CD/DVD  1.18
3           Network Device (PXE)                  Cisco NIC 23:0.0
4           Network Device (PXE)                  MBA v5.0.5 Slot 0100
5           Network Device (PXE)                  MBA v5.0.5 Slot 0101
6           Network Device (PXE)                  MBA v5.0.5 Slot 0200
7           Network Device (PXE)                  MBA v5.0.5 Slot 0201
8           Network Device (PXE)                  Cisco NIC 22:0.0
9           Internal EFI Shell                    Internal EFI Shell
10          FDD                                    Cisco Virtual HDD     1.18
11          FDD                                    Cisco Virtual Floppy  1.18

Server /bios #
```

サーバのリセット



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバをリセットしないでください。

はじめる前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシコマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # power hard-reset	確認プロンプトの後に、サーバがリセットされます。

次に、サーバをリセットする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power hard-reset
This operation will change the server's power state.
```

Continue?[y|N]

サーバのシャットダウン



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバをシャットダウンしないでください。

はじめる前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシモードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # power shutdown	サーバをシャットダウンします。

次に、サーバをシャットダウンする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power shutdown
```

サーバの電源管理

サーバの電源投入



(注) サーバの電源が CIMC 経由以外の何らかの方法でオフにされた場合、サーバは電源をオンにしてもすぐにはアクティブになりません。この場合、CIMC が初期化を完了するまで、サーバはスタンバイモードに入ります。



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源を変更しないでください。

はじめる前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # power on	サーバの電源をオンにします。

次に、サーバの電源をオンにする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power on
This operation will change the server's power state.
Continue?[y|N]y

Server /chassis # show
Power Serial Number Product Name  UUID
-----
on    Not Specified Not Specified 208F0100020F000000BEA80000DEAD00
```

サーバの電源オフ



重要

ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源をオフにしないでください。

はじめる前に

このタスクを実行するには、user または admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # power off	サーバの電源をオフにします。

次に、サーバの電源をオフにする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power off
This operation will change the server's power state.
Continue?[y|N]y

Server /chassis # show
Power Serial Number Product Name  UUID
```

```
-----
off Not Specified Not Specified 208F0100020F000000BEA80000DEAD00
```

サーバ電源の再投入



重要 ファームウェアまたは BIOS の更新が進行中の場合は、そのタスクが完了するまでサーバの電源を再投入しないでください。

はじめる前に

このタスクを実行するには、`user` または `admin` 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # power cycle	サーバ電源を再投入します。

次に、サーバ電源を再投入する例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # power cycle
```

電力ポリシーの設定

電力統計情報の表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# show power-cap [detail]	サーバ電力消費量の統計情報および電力制限ポリシーを表示します。

表示されるフィールドについては、次の表で説明します。

名前	説明
[Current Consumption]	現在サーバによって使用されている電源（ワット単位）。
[Maximum Consumption]	最後にリポートされてからサーバが使用した最大ワット数。
[Minimum Consumption]	最後にリポートされてからサーバが使用した最小ワット数。
[Minimum Configurable Limit]	このサーバのピーク電力キャップとして指定できる最小電力量（ワット単位）。
[Maximum Configurable Limit]	このサーバのピーク電力キャップとして指定できる最大電力量（ワット単位）。

そのほかのフィールドを次の表で説明します。

名前	説明
[Enable Power Capping]	電力キャッピングがイネーブルの場合、システムはサーバに割り当てられる電力量を監視し、サーバがその最大割り当て量を超えると、指定されたアクションを実行します。
[Peak Power]	このサーバに割り当てることのできる最大ワット数。サーバがこのフィールドに指定されたよりも多くの電力を要求する場合、システムは、[Non-Compliance Action] フィールドに定義されたアクションを実行します。 [Minimum Configurable Limit] フィールドおよび [Maximum Configurable Limit] フィールドに定義された範囲内のワット数を入力します。
[Non-Compliance Action]	電力キャッピングがイネーブルであり、サーバが割り当てられたピーク電力よりも多くを要求する場合に、システムが実行するアクション。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • force-power-reduction : サーバは何らかの方法で強制的に電力消費量を減らします。このオプションを使用できるのは一部の C シリーズサーバだけです。 • none : アクションは実行されず、サーバに対して、[Peak Power] フィールドに指定されたよりも多くの電力の使用が許可されます。 • power-off-host : サーバがシャットダウンします。 • throttle : サーバで実行中のプロセスのスロットリングが行われ、合計消費電力が抑えられます。

次に、詳細な電力統計情報を表示する例を示します。

```
Server# show power-cap detail
  Cur Consumption (W): 247
  Max Consumption (W): 286
  Min Consumption (W): 229
  Minimum Configurable Limit (W): 285
  Maximum Configurable Limit (W): 1250
  Power Cap Enabled: yes
  Peak Power: 0
  Non Compliance Action: throttle

Server#
```

電力制限ポリシー

電力制限ポリシーによって、サーバの電力消費をアクティブに管理する方法が決定されます。電力制限をイネーブルにすると、サーバに割り当てられている電力量がモニタされ、割り当てられている電力未満に電力消費を抑えることが試行されます。サーバがその最大割り当てを超過すると、電力制限ポリシーによって、指定された違反アクションがトリガーされます。

電力制限ポリシーの設定



(注) この機能は、一部のサーバでは使用できません。

はじめる前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope power-cap	電力制限コマンドモードを開始します。
ステップ 2	Server /power-cap # set enabled {yes no}	サーバへの電力制限をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /power-cap # set peak-power watts	このサーバに割り当てることのできる最大ワット数を指定します。 show power-cap detail コマンド出力の [Minimum Configurable Limit] フィールドおよび [Maximum Configurable Limit] フィールドで定義された範囲内の watts 数を入力します。これらのフィールドは、サーバモデルによって決まります。

	コマンドまたはアクション	目的
		サーバがこのコマンドで指定されているより多くの電力を要求すると、システムは set non-compliance-action コマンドで定義されている処理を実行します。
ステップ 4	Server /power-cap # set non-compliance-action {force-power-reduction none power-off-host throttle}	電力制限がイネーブルで、ピーク時の電力割り当てよりも大きい電力をサーバで要求している場合にシステムで実行する必要があるアクションを指定します。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • force-power-reduction : サーバは何らかの方法で強制的に電力消費量を減らします。このオプションは、一部のサーバモデルでは使用できません。 • none : アクションは実行されず、サーバはピーク時電力設定で指定されているより多くの電力を使用できます。 • power-off-host : サーバがシャットダウンされます。 • throttle : サーバで実行中のプロセスのスロットリングが行われ、合計消費電力が抑えられます。
ステップ 5	Server /power-cap # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、電力制限ポリシーをイネーブルにして設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope power-cap
Server /power-cap # set enabled yes
Server /power-cap *# set peak-power 1000
Server /power-cap *# set non-compliance-action throttle
Server /power-cap *# commit
Server /power-cap # show detail
  Cur Consumption (W): 688
  Max Consumption (W): 1620
  Min Consumption (W): 48
  Minimum Configurable Limit (W): 500
  Maximum Configurable Limit (W): 2000
  Power Cap Enabled: yes
  Peak Power: 1000
  Non Compliance Action: throttle

Server /power-cap #
```

電力復元ポリシーの設定

電力復元ポリシーによって、シャージの電力供給が失われた後、サーバに電力を復元する方法が決定されます。

はじめる前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # set policy {power-off power-on restore-last-state}	<p>シャーシの電源が復旧した場合に実行するアクションを指定します。次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • power-off : サーバの電源は、手動で投入されるまでオフのままになります。これがデフォルトのアクションになります。 • power-on : シャーシの電源が回復したときにサーバの電源がオンになります。 • restore-last-state : サーバの電源は、シャーシの電源が切断される前の状態に戻ります。 <p>選択したアクションが power-on の場合は、サーバに対して電源を回復するまでの遅延を選択できます。</p>
ステップ 3	Server /chassis # set delay {fixed random}	<p>(任意)</p> <p>サーバの電源復元までの時間を固定するか、ランダムにするかを指定します。デフォルトは fixed です。このコマンドは、電力復元アクションが power-on の場合のみ使用可能です。</p>
ステップ 4	Server /chassis # set delay-value delay	<p>(任意)</p> <p>遅延時間を秒単位で指定します。指定できる範囲は 0 ~ 240 です。デフォルト値は 0 です。</p>
ステップ 5	Server /chassis # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、180 秒 (3 分) の固定遅延で電源をオンにする電力復元ポリシーを設定し、トランザクションをコミットする例を示します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # set policy power-on
Server /chassis *# set delay fixed
Server /chassis *# set delay-value 180
Server /chassis *# commit
Server /chassis # show detail
Chassis:
  Power: on
  Serial Number: QCI1404A1IT
  Product Name: UCS C200 M1
```

```

PID : R200-1120402
UUID: 01A6E738-D8FE-DE11-76AE-8843E138AE04
Locator LED: off
Description: Testing power restore
Power Restore Policy: power-on
Power Delay Type: fixed
Power Delay Value(sec): 180

```

```
Server /chassis #
```

Flexible Flash コントローラの管理

Cisco Flexible Flash

C シリーズ ラックマウント サーバの中には、サーバソフトウェア ツールおよびユーティリティのストレージとして、内蔵 Secure Digital (SD) メモリ カードをサポートしているものがあります。この SD カードは Cisco Flexible Flash ストレージアダプタでホストされます。

CIMC は、SD ストレージを 4 つの仮想 USB ドライブとして使用できます。4 つの仮想 USB ドライブのうち 3 つはシスコソフトウェアにあらかじめロードされており、4 つ目はユーザがハイパーバイザまたはその他のコンテンツにインストールします。4 つの仮想ドライブは次のとおりです。

- Cisco UCS-Server Configuration Utility (ブート可能)
- ユーザがインストール (ブート可能な場合あり)
- シスコ ドライバ (ブート不可)
- Cisco Host Upgrade Utility (ブート可能)

シスコソフトウェア ユーティリティおよびパッケージの詳細については、次の URL の『Cisco UCS C-Series Servers Documentation Roadmap』を参照してください。

<http://www.cisco.com/go/unifiedcomputing/c-series-doc>

Flexible Flash コントローラ プロパティの設定

はじめる前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Server /chassis # scope flexflash index	指定コントローラに対して Cisco Flexible Flash コントローラ コマンド モードを開始します。この時点では、許容される <i>index</i> 値は FlexFlash-0 だけです。
ステップ 3	Server /chassis/flexflash # scope operational-profile	Operational Profile コマンド モードを開始します。
ステップ 4	Server /chassis/flexflash/operational-profile # set error-count-threshold	<p>Cisco Flexible Flash カードへのアクセス中に許可される読み取り/書き込みエラーの数を指定します。エラー数がこのしきい値を超えると、Cisco Flexible Flash カードがディセーブルになります。CIMC が再アクセスを試みる前に、カードをリセットする必要があります。</p> <p>読み取り/書き込みエラーのしきい値を指定するには、1 ~ 255 の整数を入力します。検出されたエラー数に関係なく、カードがディセーブルにならないように指定するには、0 (ゼロ) を入力します。</p>
ステップ 5	Server /chassis/flexflash/operational-profile # set raid-primary-member {slot1 slot2}	<p>データのプライマリ コピーが存在するスロット。</p> <p>重要 現在、Cisco Flexible Flash カードはスロット 1 でのみサポートされています。したがって、このフィールドは slot1 に設定する必要があります。</p>
ステップ 6	Server /chassis/flexflash/operational-profile # set virtual-drives-enabled list	<p>サーバから USB 形式のドライブとして使用できるようにする仮想ドライブのリストを指定します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SCU : サーバは Cisco UCS-Server Configuration Utility にアクセスできます。 • DRIVERS : サーバはシスコ ドライバボリュームにアクセスできます。 • HV : サーバはユーザがインストールしたハイパーバイザにアクセスできます。 • HUU : サーバは Cisco Host Upgrade Utility にアクセスできます。 <p>複数のオプションを指定する場合は、リストを引用符 (") で囲む必要があります。</p>
ステップ 7	Server /chassis/adaptor # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

この例では、フラッシュ コントローラのプロパティを設定します。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # scope flexflash FlexFlash-0
Server /chassis/flexflash # scope operational-profile
Server /chassis/flexflash/operational-profile # set error-count-threshold 100
Server /chassis/flexflash/operational-profile ## set raid-primary-member slot1
Server /chassis/flexflash/operational-profile ## set virtual-drives-enabled "SCU HUU"
Server /chassis/flexflash/operational-profile ## commit
Server /chassis/flexflash/operational-profile #
```

Flexible Flash からのブート

Cisco Flexible Flash カード上のブート可能な仮想ドライブを指定して、サーバが次に再起動されたときにそのドライブをデフォルトのブートプライオリティよりも優先させることができます（サーバに定義されているデフォルトブート順は無視されます）。指定したブートデバイスは一度だけ使用されます。サーバがリブートした後、この設定は無効になります。



(注) サーバをリブートする前に、選択する仮想ドライブが Cisco Flexible Flash カード上でイネーブールになっていることを確認してください。

はじめる前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # set boot-override {None SCU HV HUU}	次回サーバが再起動されるときにブートを試行する仮想ドライブ。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • None : サーバはデフォルトのブート オーダーを使用します • SCU : サーバは Cisco UCS-Server Configuration Utility からブートします • HV : サーバはハイパーバイザ仮想ドライブから起動します • HUU : サーバは Cisco Host Upgrade Utility からブートします

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	Server /bios # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

この例では、サーバが次の再起動時に Cisco UCS-Server Configuration Utility からブートするよう指定します。

```
Server# scope bios
Server /bios # set boot-override SCU
Committing the boot override BIOS will try boot to
the specified boot device first. Failure to detect
the boot device BIOS will boot from the list
configured in the BIOS boot order.
Server /bios *# commit
Server /bios #
```

Flexible Flash コントローラのリセット

通常の操作では、Cisco Flexible Flash のリセットが必要になることはありません。テクニカルサポートの担当者から明確に指示された場合にだけ、この手順を実行することを推奨します。



(注) この操作は、Cisco Flexible Flash コントローラ上の仮想ドライブへのトラフィックを中断させます。

はじめる前に

- このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。
- お使いのプラットフォームで Cisco Flexible Flash がサポートされている必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope chassis	シャーシ コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /chassis # scope flexflash index	指定コントローラに対して Cisco Flexible Flash コントローラ コマンド モードを開始します。この時点では、許容される <i>index</i> 値は FlexFlash-0 だけです。
ステップ 3	Server /chassis/flexflash # reset	Cisco Flexible Flash コントローラをリセットします。

この例では、フラッシュ コントローラをリセットします。

```
Server# scope chassis
Server /chassis # scope flexflash FlexFlash-0
Server /chassis/flexflash # reset
This operation will reset Cisco Flexible Flash controller.
Host traffic to VDs on this device will be disrupted.
Continue?[y|N] y

Server /chassis/flexflash #
```

BIOS の設定

BIOS ステータスの表示

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # show detail	BIOS ステータスの詳細を表示します。

BIOS ステータス情報には、次のフィールドが含まれます。

名前	説明
BIOS Version	実行中の BIOS のバージョン文字列。
Boot Order	サーバが使用を試行する、ブート可能なターゲット タイプの順序。
Boot Override Priority	None、SCU、HV、HUU のいずれかになります。
FW Update/Recovery Status	保留中のファームウェアアップデートまたは回復アクションのステータス。
FW Update/Recovery Progress	直近のファームウェアアップデートまたは回復アクションの完了率。

次に、BIOS ステータスを表示する例を示します。

```
Server# scope bios
Server /bios # show detail
  BIOS Version: "C460M1.1.2.2a.0 (Build Date: 01/12/2011)"
  Boot Order: EFI,CDROM,HDD
  Boot Override Priority:
```



```
FW Update/Recovery Status: NONE
FW Update/Recovery Progress: 100
```

```
Server /bios #
```

主要な BIOS の設定

はじめる前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # scope main	主要な BIOS 設定コマンド モードを開始します。
ステップ 3	BIOS 設定を設定します。	<p>使用可能な BIOS パラメータは、使用しているサーバのモデルによって異なります。各 BIOS 設定のオプションに関する説明および情報については、次のいずれかを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • C200 および C210 サーバの主要な BIOS パラメータ • C250 サーバの主要な BIOS パラメータ • C260 サーバの主要な BIOS パラメータ • C460 サーバの主要な BIOS パラメータ
ステップ 4	Server /bios/main # commit	<p>トランザクションをシステムの設定にコミットします。</p> <p>変更はサーバの次のリブート時に適用されます。サーバの電源がオンの場合、ただちに再起動するかどうかを選択するように求められます。</p>

この例では、重大な POST エラーの発生時にブートを一時停止するよう BIOS を設定し、トランザクションをコミットします。

```
Server# scope bios
Server /bios # scope main
Server /bios/main # set POSTErrorPause Enabled
Server /bios/main *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /bios/main #
```

BIOS の詳細設定



(注) 搭載されているハードウェアによっては、このトピックで説明されている一部の設定オプションが表示されない場合があります。

はじめる前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # scope advanced	高度な BIOS 設定コマンド モードを開始します。
ステップ 3	BIOS 設定を設定します。	使用可能な BIOS パラメータは、使用しているサーバのモデルによって異なります。各 BIOS 設定のオプションに関する説明および情報については、次のいずれかを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • C200 および C210 サーバの高度な BIOS パラメータ • C250 サーバの高度な BIOS パラメータ • C260 サーバの高度な BIOS パラメータ • C460 サーバの高度な BIOS パラメータ
ステップ 4	Server /bios/advanced # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。 変更はサーバの次のリブート時に適用されます。サーバの電源がオンの場合、ただちに再起動するかどうかを選択するように求められます。

この例では、低電圧 DDR メモリ モードを有効にし、トランザクションをコミットします。

```
Server# scope bios
Server /bios # scope advanced
Server /bios/advanced # set LvDDRMode Enabled
Server /bios/advanced *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /bios/advanced #
```

サーバ管理 BIOS の設定

はじめる前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持ってログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # scope server-management	サーバ管理 BIOS 設定コマンド モードを開始します。
ステップ 3	BIOS 設定を設定します。	<p>使用可能な BIOS パラメータは、使用しているサーバのモデルによって異なります。各 BIOS 設定のオプションに関する説明および情報については、次のいずれかを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • C200 および C210 サーバのサーバ管理 BIOS パラメータ • C250 サーバのサーバ管理 BIOS パラメータ • C260 サーバのサーバ管理 BIOS パラメータ • C460 サーバのサーバ管理 BIOS パラメータ
ステップ 4	Server /bios/server-management # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。変更はサーバの次のリブート時に適用されます。サーバの電源がオンの場合、ただちに再起動するかどうかを選択するように求められます。

この例では、BMC の自動検出をイネーブルにし、トランザクションをコミットします。

```
Server# scope bios
Server /bios # scope server-management
Server /bios/server-management # set BMCpnP Enabled
Server /bios/server-management *# commit
Changes to BIOS set-up parameters will require a reboot.
Do you want to reboot the system?[y|N] n
Changes will be applied on next reboot.
Server /bios/server-management #
```

BIOS デフォルトの復元

はじめる前に

このタスクを実行するには、admin 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope bios	BIOS コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /bios # bios-setup-default	BIOS のデフォルト設定を復元します。このコマンドでは、リブートが開始されます。

次の例は、BIOS デフォルト設定を復元します。

```
Server# scope bios
Server /bios # bios-setup-default
This operation will reset the BIOS set-up tokens to factory defaults.
All your configuration will be lost.
Changes to BIOS set-up parameters will initiate a reboot.
Continue?[y|N]y
```